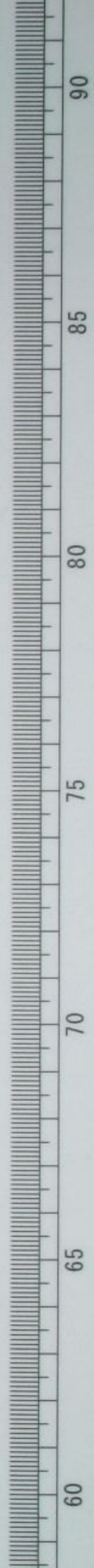


弘法大師御傳記 五



八  
五  
597  
5



弘法大師の傳記を第2

目録

久未塔傳記の事

八幡湯の事

室生山福田の事

南無堂の事

久米湯の事

新泉寺の事

大市御書

六十

天皇の御怒親の事

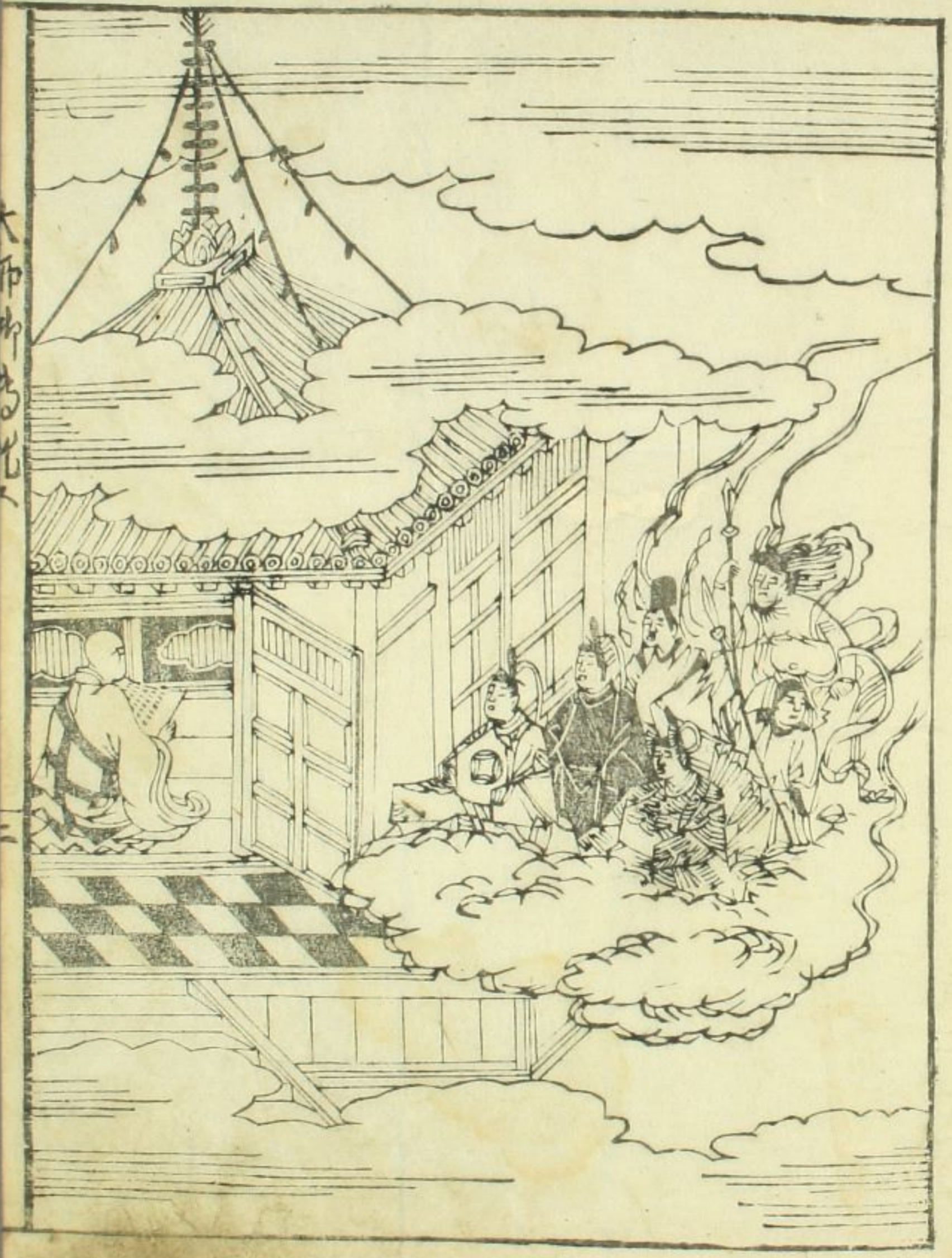
小児種生事

牛の吼と実知孫の事

天地合の二字此事

大帥の傳記卷之二

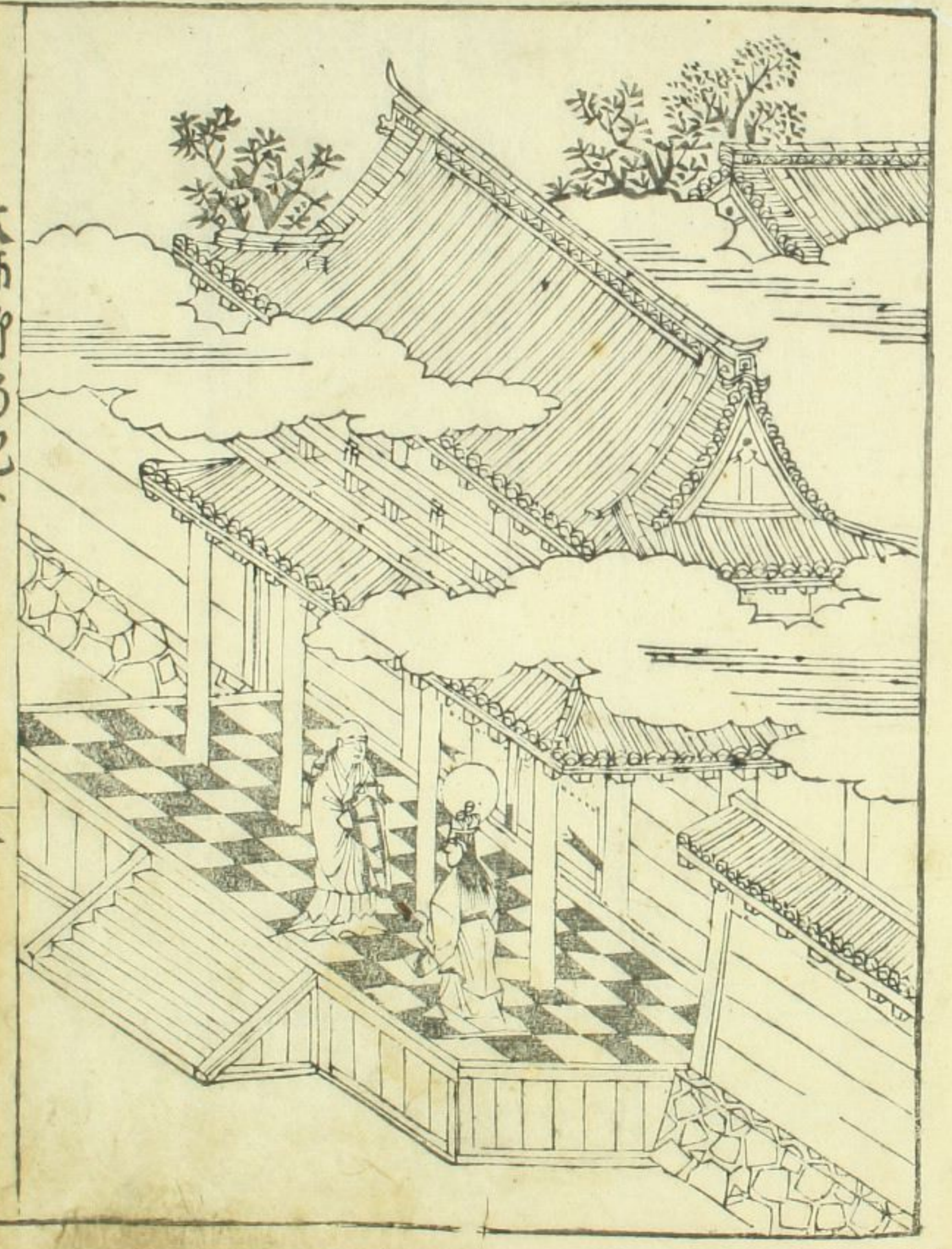
かくて大帥大和公久麻呂よんてつと給ひて。若  
身長不短乃孫よ付て大日孫と稱し給ひけ  
ふ。これゆゑのつげふよりはされ東塔のりとお  
し。そんぞ思ては孫と稱さまひしゆ。地乃  
思と稱し給ふべし。さうし。やゆり。そんぞ死  
伊勢志保神と云ふ。思てまらり。自中玉の大  
小乃神祇。事比。新造乃けら。らとあ。う。し。  
まひ。く。ゆ。ら。ち。う。ん。海。善。志。給。ひ。う。ら。と。う。や。  
ま。れ。大。帥。の。は。は。は。ま。ん。乃。孫。奥。神。の。事。を。  
。納。受。と。し。れ。あ。ふ。人。傳。ら。し。た。ま。り。あ。ふ。事。に。



大和物語

作したくまらうさむらや。そむら東大おの  
 中口と大御に一人とまゝうたまたまよん  
 一人口まかりりりうさむらとまゝおまり。せの  
 新しきたんとはなごも。老ゆらやさあ  
 つどごとさゆゆぢひあり。大御あや一を  
 けがらあり。いあらはうとてゆりけ  
 りこのいまひけあは

かの人のいふやうにげらるるありきゆりてはこ  
 まはなほ八幡なるもまねと知るよははげ  
 りらこのいふありやがわいとてらるるあまは  
 わあうれどはあれまゝとてうらぐらぐらあるた  
 りまゝのまゝあはなはれらるるあまのいふ  
 ぞいふこといふにやうきありきとていふは  
 まゝのまゝあまのまゝとていふまゝとていふ  
 りらひありきとていふまゝとていふまゝとていふ  
 まゝとていふまゝとていふまゝとていふまゝと  
 たり



大正十一年

機よあさうひの時とんるもてあつひの釈迦佛と  
あつけれ。又ひ孫治佛と現む。夫らくうてに  
善無畏と説く。一と密教とさういふも  
我ありしゆゆもい神託ありけりとならま  
し。に理智は身乃依正三つて衣襲の衣を  
つら。大日蓮菩薩の因果。たがひは師資の徳  
とあつり。結ぶかえりく。出くあつひの釈迦と。又  
いさうら。大菩薩と大師。いかにあつたり。すこ  
れうまうんや。され。大菩薩の本地。釈迦如来  
説く。よら。大師の雲山乃神託ありん。と。又。河原  
治佛の説く。うら。釈迦菩薩の本地。釈迦如来と

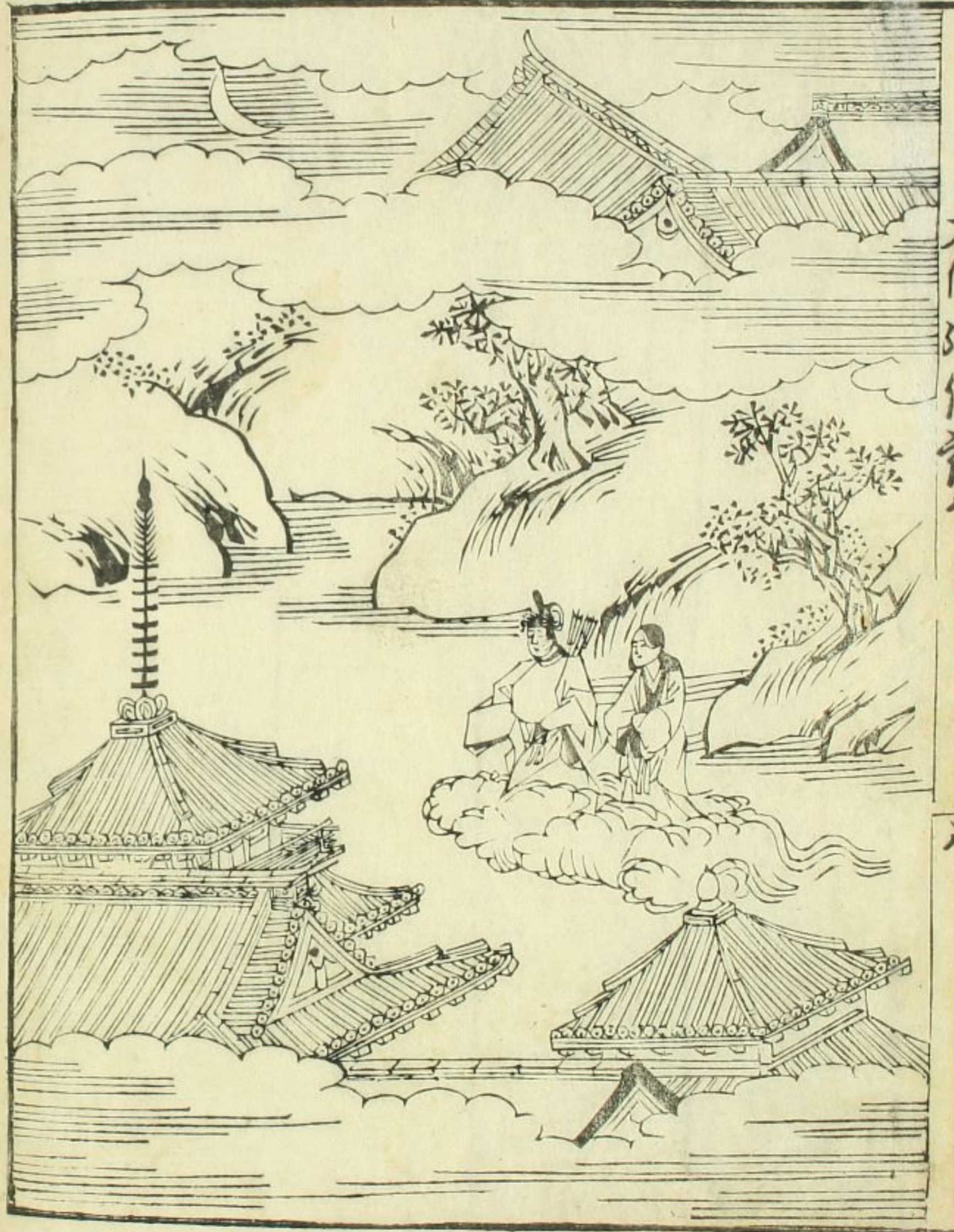
ありしゆゆもい神託ありけりとならま  
し。に理智は身乃依正三つて衣襲の衣を  
つら。大日蓮菩薩の因果。たがひは師資の徳  
とあつり。結ぶかえりく。出くあつひの釈迦と。又  
いさうら。大菩薩と大師。いかにあつたり。すこ  
れうまうんや。され。大菩薩の本地。釈迦如来  
説く。よら。大師の雲山乃神託ありん。と。又。河原  
治佛の説く。うら。釈迦菩薩の本地。釈迦如来と

大和の事

必るつら。大帥。いはいはらとぞ。あつてまふ利。  
 万民の爲命。とらりりんがたふらよ。ら必相承。  
 乃重負とれさめ。奉る海をぬゆ。あはら。  
 入室の才。あつてまふらよ。あつてまふら。  
 のゆりのと。い。あつてまふらよ。あつてまふら。  
 備大業。薩日夜。よ。あつてまふらよ。あつてまふら。  
 徳とあつてまふらよ。あつてまふらよ。あつてまふら。  
 益とあつてまふらよ。あつてまふらよ。あつてまふら。  
 若陸地。あつてまふらよ。あつてまふらよ。あつてまふら。  
 花沈り。あつてまふらよ。あつてまふらよ。あつてまふら。  
 一。あつてまふらよ。あつてまふらよ。あつてまふら。

志。あつてまふらよ。あつてまふらよ。あつてまふら。  
 吳。あつてまふらよ。あつてまふらよ。あつてまふら。  
 俗。あつてまふらよ。あつてまふらよ。あつてまふら。  
 う。あつてまふらよ。あつてまふらよ。あつてまふら。  
 一。あつてまふらよ。あつてまふらよ。あつてまふら。  
 て。あつてまふらよ。あつてまふらよ。あつてまふら。  
 り。あつてまふらよ。あつてまふらよ。あつてまふら。

一  
 一  
 一



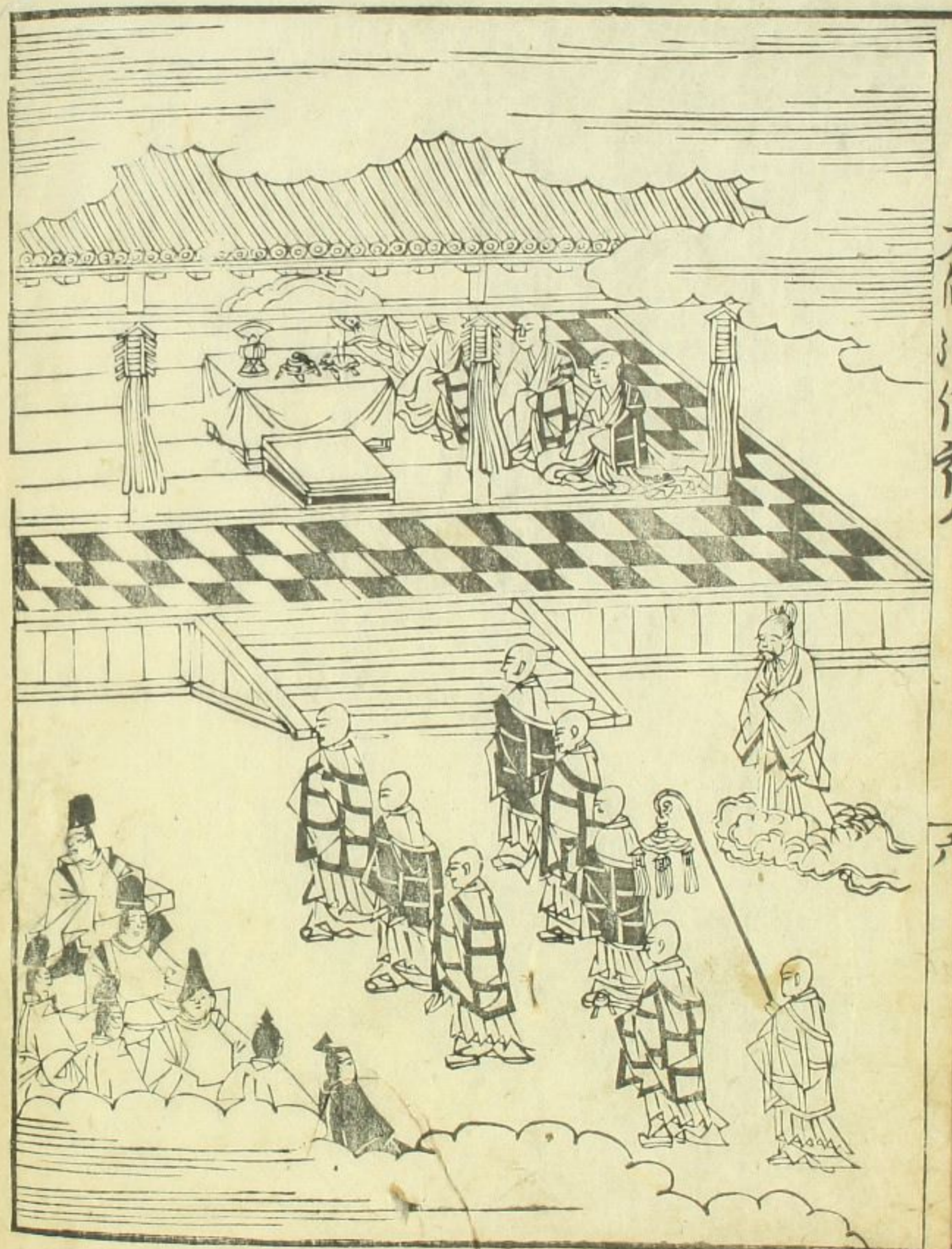
又ある所。果院のち大匠を翻大師とありあひと  
 てしりりて我はられ大祿冠あり。六代のは能肉  
 磨の大匠乃ち男也。若人王と千九代天智と室  
 乃中とれ。種是乃肉大匠。若原乃姓とたさりし  
 あり。代々の帝のゆりありとありたり。一り  
 弘仁のころより。ついで藤氏乃人王のうらふ。さ  
 人となり也。家の世昌せん。ついでわんとして  
 坊師ひり。ついで大師のさしひける。山階の肉  
 よ。南唐堂とてあへ。志うの一家とせんなる  
 一とありとられけきは

大匠の世昌

大匠の世昌



冬 齋令のあつく。もあきとあつらう。日あつとていざさしはすあつらう大御  
 一なりていさほまのまし。大御経  
 伸しくされがごとけあつと春日の神を  
 ねさかとおわられけをまひて。いさささ  
 森一わ乃あらからとらふんあひちつとや  
 かつり。梅へまや。因院乃大長れい子  
 帝。此祖皇后のいささして。横政よありあ  
 我朝乃横政いささしたあまをほまわける  
 て。一門のあつれいささ。皆百王の物  
 へ。今乃代よつとあつとて。横政ま  
 へとや。

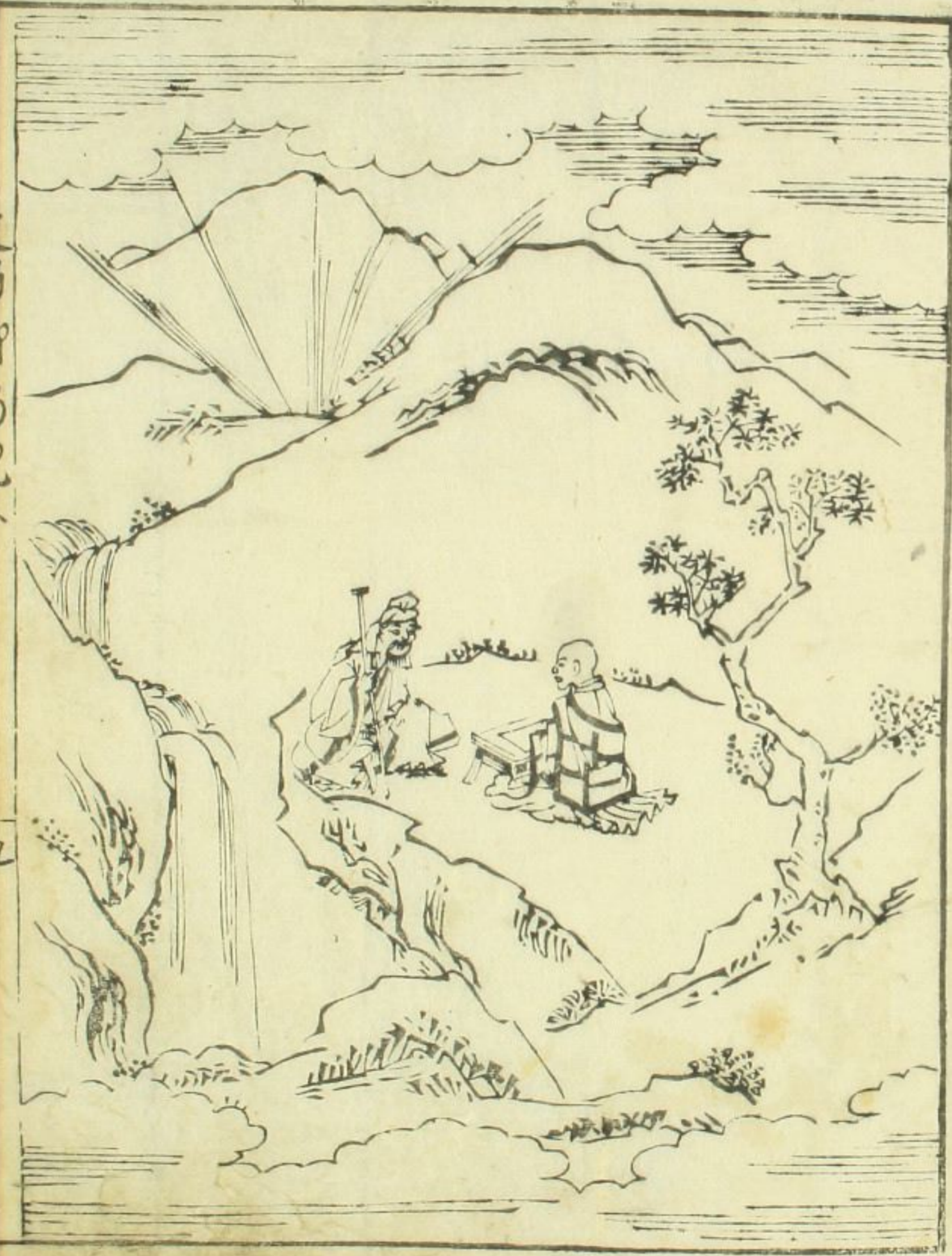


大御経



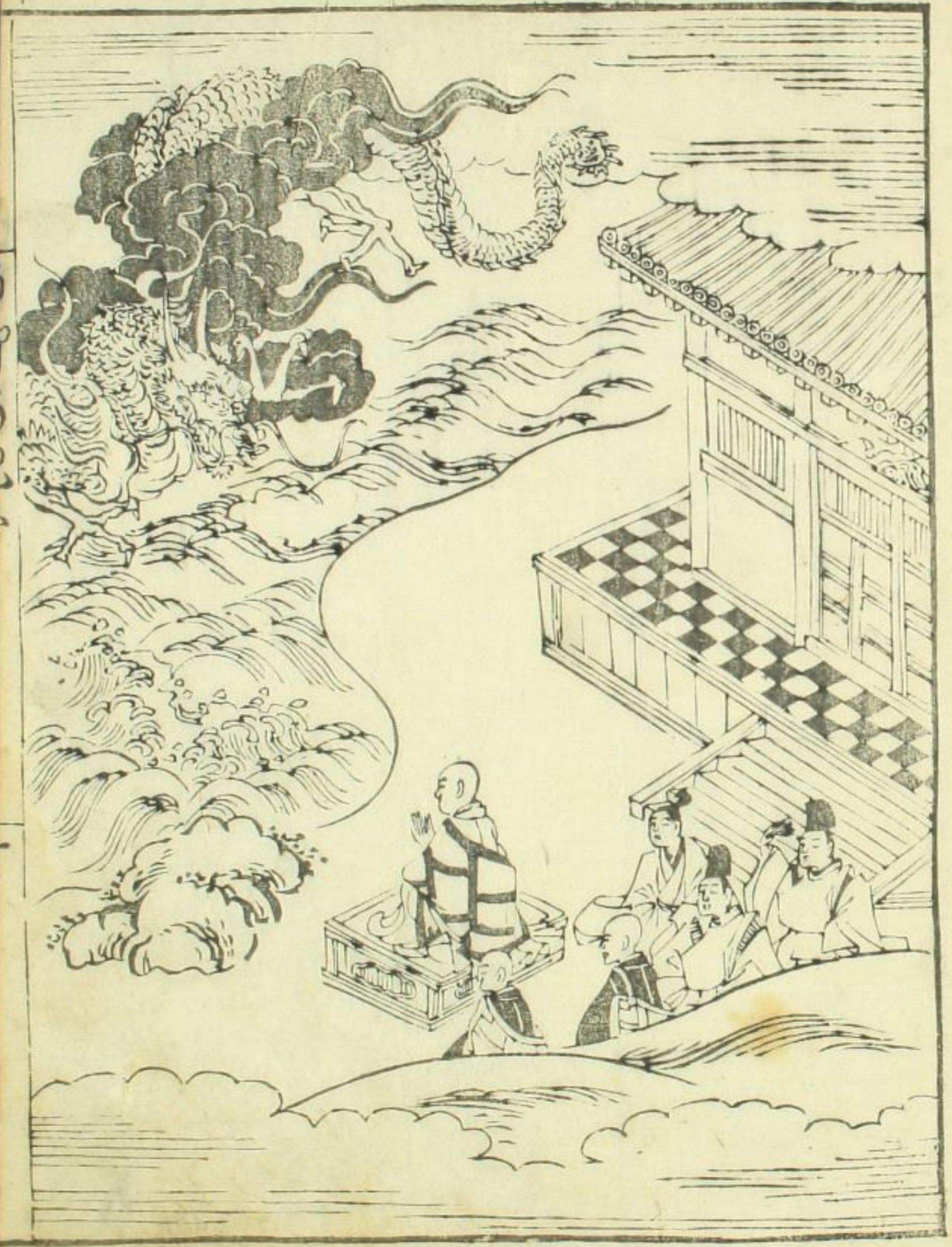
寺にけ敷氏ふりまゝりていまは地家よわ  
 じゆにまきの神恩あつて冬扇乃  
 花とひくさあふやだは大師乃は方便  
 力なるべしな後白河院のほらうにのは堂乃  
 かうつふ播とてそらうべしと地とひれけ  
 よ。金綱乃教とかり出らるしあり。も家の  
 志教親大信終る下法家のあうくさくへ  
 勅旨もけつよすてま子細とあうくありしよ。通  
 知院の後教義範一人は教の子細おのの極更と  
 細してあやんをらわよ。さうたがすまありなり  
 希代乃るるありしとや

大徳の徳



大師 法印の源林小野一法乃西傳といふ  
 世こそいひてあまざるはあそれ大法界の中  
 敷へ金剛乘乃源危あり。附法正傳乃外。その  
 奥義とゆりたまはるは傳流乃存まざる也  
 其の源よあえくもあまざる也。その  
 大師 南山大意流のありける附法正傳  
 唐物竹輪等の重宝とこけり書たまはる  
 教乃中よりあまざる。かろねの橋あそ  
 とに到らまそあまの先達はつて是とあま  
 まらそゆる也。彼れあまらざる也。あま  
 いまのせも彼れあまらざる也。あまらざる

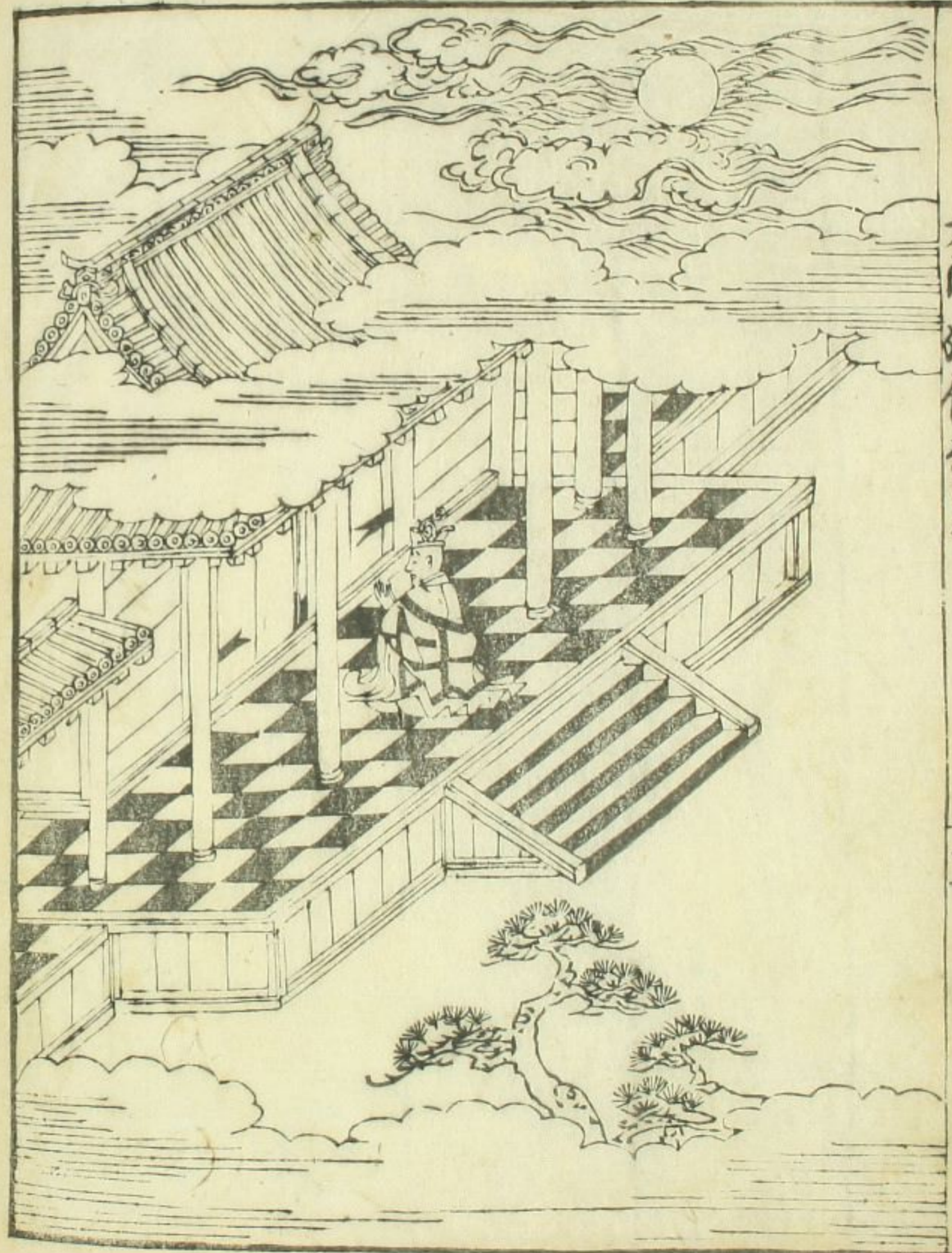
かしふ阿ふい実者山よりうらへきし老阿ふいしを  
 とせかしつて河内のお新るおまの幸祝大后御書と  
 ちんと志あふよげ地乃務家ちよあひうまへり也  
 へどもはまのりあつてりりくろ大ちり地ちてお新  
 中しすも人氏ちるよ書とるき村岡みお出へて  
 合り志くれ大后御書とるき御書とたあして  
 国志うらへし申あうらへ地の産とらます七日お新よ  
 及りしを阿新主人の形と現げてりお大后名刺の  
 授給とりしとままんよい我あんどあのうんごりぬ  
 け乃威勢よあうらへりやとがかなの形とるけい  
 し。表初雷電天地とひりくろびりりらるま



それより池の酒場にてお座うりありあは  
と海つらま申十余町も遠くと建てること  
りも僧徒住者するにさほどつるすこと大脚よ  
うなひりされまゝ大脚酒場にて池の向い  
ておつらま申お持まり海をい事おは味と  
ておまをとおとれらして橋池よ海り事と  
衆とわらへておまをたれまゝとておは味と  
つらまふゆいよまゝの早とお衆とと地の中  
ふしありおつらま申お持まり海をい事と  
らまゝの乃西門ありて日お衆とと地の中  
し事とわらへておまをたれまゝとておは味と

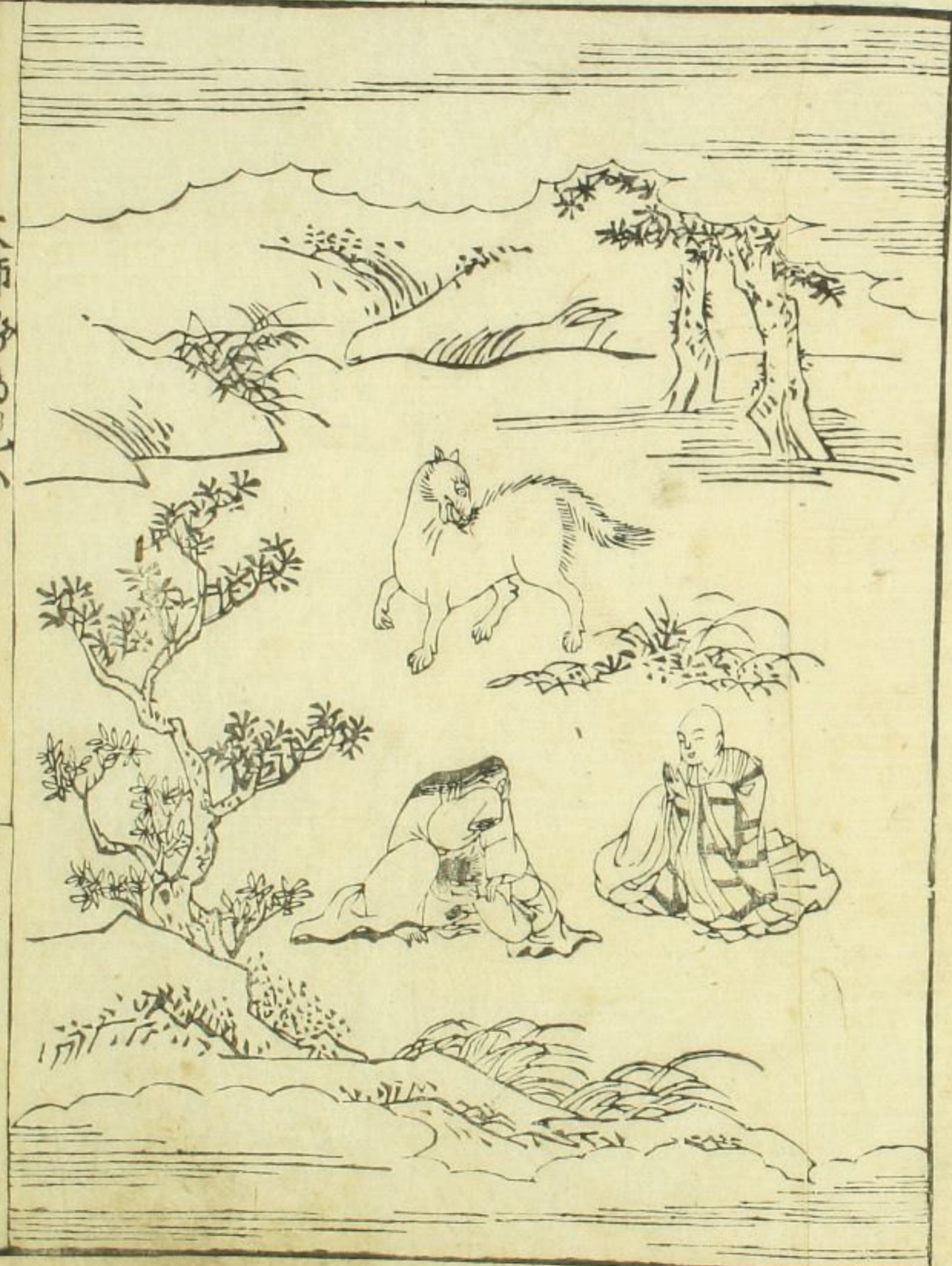
しありまお日おまゝとておは味と  
おたらまお地うりかづうに日お衆とと地の中  
見かひとすまわらへておまをたれまゝとておは味と  
わらへておまをたれまゝとておは味と  
おらまゝの乃西門ありて日お衆とと地の中  
し事とわらへておまをたれまゝとておは味と

されよわね家乃必大老乃部よのこりしは  
 乃乃こりしよ一人のむねまをく死しるむら  
 といひぬらうとまげさぬらりたるは犬師あや  
 とゆとさづのゆめはたうかこころてりしと  
 ころはしりて年々うとめらわも老也いはい  
 西は松<sup>まつ</sup>ぬりしおあまこころとまうまふがま  
 らがさぞ一人の男子もたどと根乃た老より  
 られおまらうめしむめおむらひいしめ  
 志がひといこころとまうあめを地うりて  
 老より大脚お使よれりめすからちを  
 のたかよそまのりぬと禰<sup>ね</sup>あは枝男子たらま



大脚お使よれり

うまのり身の安穩しうまのむね親子のりまに  
 大師とておしまりうまのびおまのりけりまに  
 大師村とておのりうまのむね親子のりまに  
 大師とておしまりうまのびおまのりけりまに  
 大師とておしまりうまのびおまのりけりまに  
 大師とておしまりうまのびおまのりけりまに



大師法苑珠林

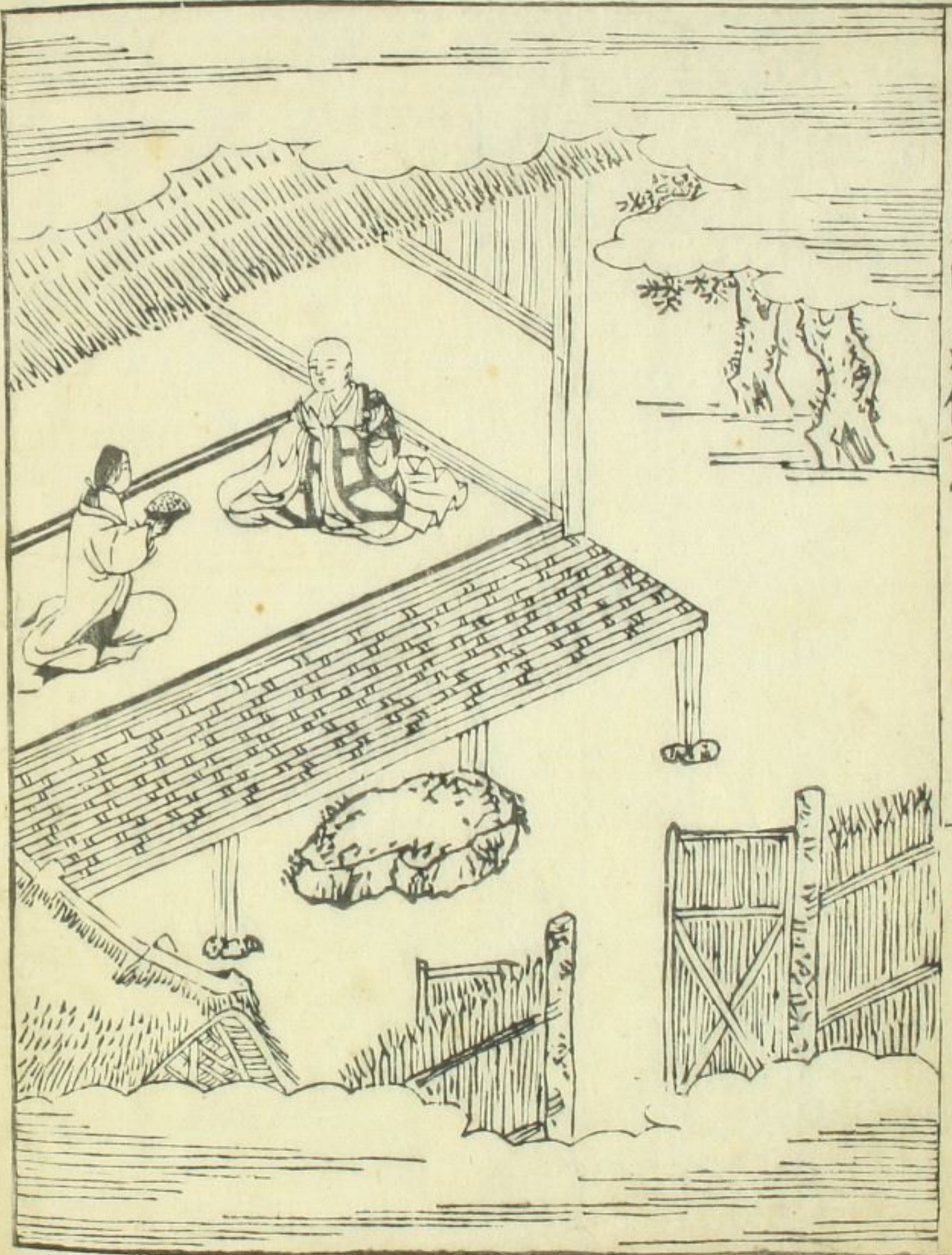


又信吾乃うとていふ事ありありしよふいふ所を  
 横大師とていふ事ありありしよふいふ所を  
 一むらひてめんぢりありありしよふいふ所を  
 とせしむられけり。佛弟子ありありしよふいふ所を  
 いくばくもせしむる事ありありしよふいふ所を  
 まんじ。あるは横と弁おのとていふ事ありありしよふいふ所を  
 色ぞとていふ事ありありしよふいふ所を  
 乃かゆるといふ事ありありしよふいふ所を  
 一えん指とていふ事ありありしよふいふ所を



又ある時大師より曲のあと... 志のちをせあひて... 飯とのりもて... けり来とを... けり来とを... けり来とを...

小わいまり... たるひ... ありあり... とあぐ... くれ... けり... けり... けり... 字と書付て...



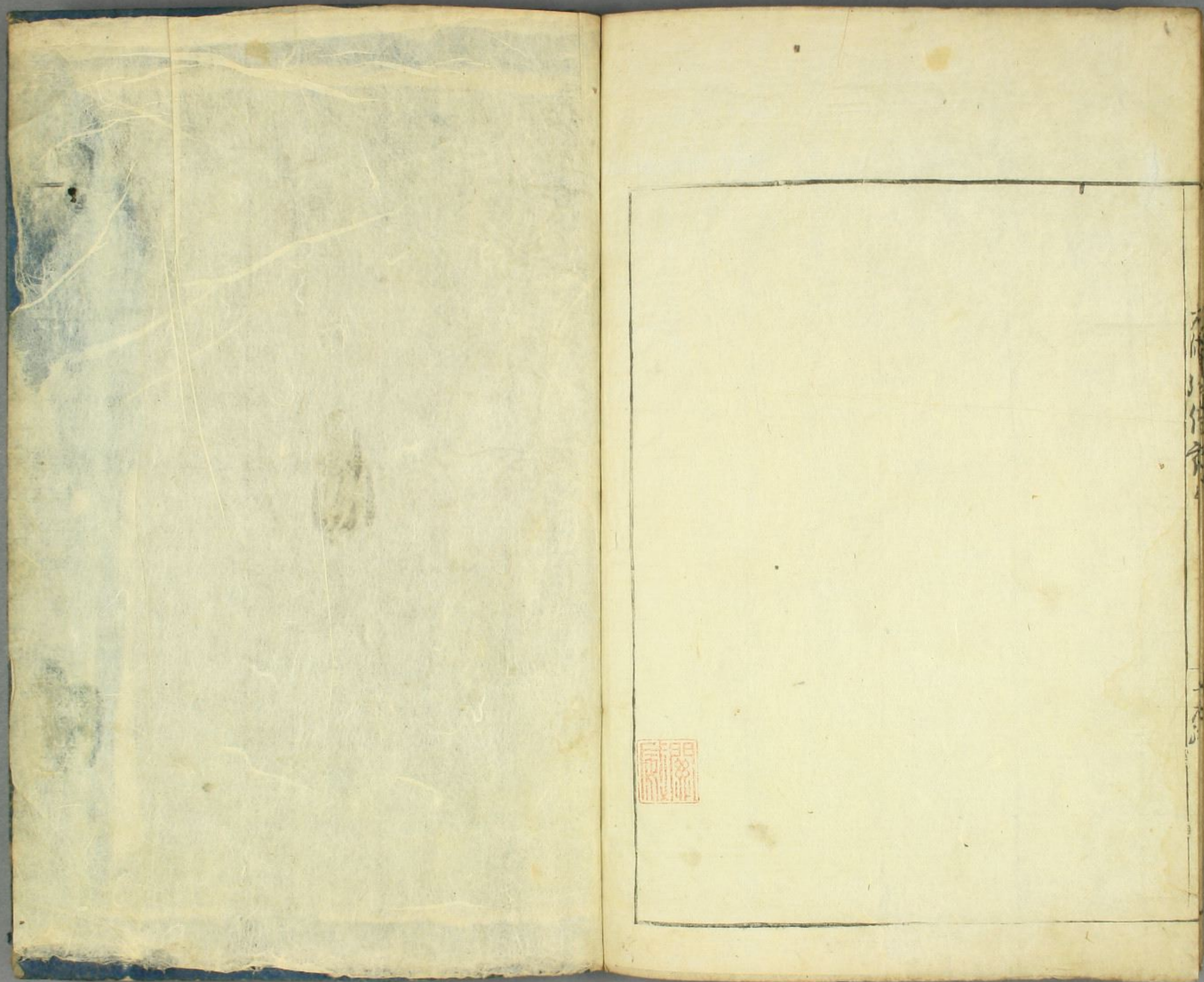
大佛地持

十一

一はかのらまららふあうあうさうら  
 多げまらまらえうあまらあわあいて  
 ありをりらゆまばらげのやまひ平念  
 じやつふあうとまらさそはてのららと  
 えしをほひくさうあまら山うそねと  
 乃れあまらよとれわりげ神と中ハ  
 何れも地持くらまらさそとらりー  
 中へ人ゆふ

大佛地持

十一



Vertical text on the right edge of the right page, possibly bleed-through from the reverse side.

